

FINANCIAL REPORT

2014

福井大学

平成 26 事業年度
財務レポート

未来へ。世界へ。 さあ、新たなステージに 踏みだそう。

理念

福井大学は、学術と文化の拠点として、高い倫理観のもと、人々が健やかに暮らせるための科学と技術に関する世界的水準での教育・研究を推進し、地域、国及び国際社会に貢献し得る人材の育成と独創的にかつ地域の特色に鑑みた教育科学研究、先端科学技術研究及び医学研究を行い専門医療を実践することを目的とします。

長期目標

福井大学は、21世紀のグローバル社会において、高度専門職業人として活躍できる優れた人材を育成します。

福井大学は、教員一人ひとりの創造的な研究を尊重するとともに本学の地域性等に立脚した研究拠点を育成し、特色ある研究で世界的に優れた成果を発信します。

福井大学は、優れた教育、研究、医療を通して地域発展をリードし、豊かな社会づくりに貢献します。

福井大学は、ここで学び、働く人々が誇りと希望を持って積極的に活動するために必要な組織・体制を構築し社会から頼りにされる元気な大学になります。

— INDEX —

財務諸表等の概要	1
• 貸借対照表B/S	1
• 損益計算書P/L	3
• キャッシュ・フロー計算書	5
• 国立大学法人等業務実施コスト計算書	6
財務指標による分析	7
財務状況	9
福大 HOT NEWS	11



◆貸借対照表B/S

貸借対照表とは、平成27年3月31日時点で本学がどのくらいの資産を保有し、外部にどれだけの債務を負っているか、基盤となる純資産はどれだけあるかなど財政状態を表示したものです。

主な増減理由	区 分	平成25年度	平成26年度	増減額
	資産の部			
	固定資産			
	土地	42,278	42,278	0
医学部附属病院病棟新営及び特別支援学校校舎改修に伴う増	▶ 建物	18,399	26,150	7,751
	構築物	383	457	74
洗浄・滅菌システム一式及び手術総合システムによる増	▶ 工具器具備品	6,845	7,710	865
	図書	2,571	2,578	7
	美術品・收藏品	49	49	0
医学部附属病院病棟新営に係る資産計上等に伴う減	▶ 建設仮勘定	8,075	553	▲7,522
	特許権	13	13	0
	ソフトウェア	41	76	35
長期性預金の預入による増	▶ 特許権仮勘定	47	49	2
	その他	11	1,009	998
	流動資産			
医学部附属病院病棟新営その他工事費用の未払金減少に伴う減	▶ 現金及び預金	15,411	8,640	▲6,771
	未収学生納付金収入	39	37	▲2
	未収附属病院収入	2,421	2,605	184
補助金、受託・共同研究分の減	▶ その他未収入金	711	237	▲474
	たな卸資産	32	24	▲8
	医薬品及び診療材料	121	123	2
	その他	27	59	32
	資産合計	97,476	92,647	▲4,829

注) 単位未満は四捨五入しており、計は必ずしも一致しません。

資 産

平成26年度末現在の資産は、前年度比48億2千9百万円(5.0%)減の926億4千7百万円となっています。

主な増加要因としては、建物が、附属病院病棟新営などの増加等により前年度比77億5千1百万円(42.1%)増の261億5千万円となったことが挙げられます。

一方、減少要因としては、建設仮勘定が、病棟新営に係る資産計上等に伴い前年度比75億2千2百万円(93.2%)減の5億5千3百万円となったこと、現金及び預金が、病棟新営その他工事費用の未払金減に伴い前年度比67億7千1百万円(43.9%)減の86億4千万円となったことが挙げられます。

負債

2

平成26年度末現在の負債は、前年度比 58億3百万円(15.5%)減の316億8千7百万円となっています。

主な増加要因としては、長期借入金が、附属病院病棟設備に係る借入に伴い前年度比 14億1千4百万円(15.6%)増の104億6千2百万円となったことが挙げられます。

一方、主な減少要因としては、未払金が、病棟新営その他工事費用の未払金減に伴い前年度比 62億2千3百万円(67.2%)減の30億3千5百万円となったことが挙げられます。

(単位：百万円)

区分	平成25年度	平成26年度	増減額	主な増減理由
負債の部				
固定負債				
資産見返負債	9,486	9,125	▲361	運営費交付金財源購入資産の減
財務・経営センター負担金	1,519	1,210	▲309	
長期借入金	9,048	10,462	1,414	26年度返済による減
長期リース債務	610	146	▲464	26年度借入による増
その他	187	221	34	
流動負債				
運営費交付金債務	1,455	1,096	▲359	リース資産購入減に伴う長期リース債務の減
寄附金債務	3,857	4,097	240	
前受受託研究費等	144	138	▲6	業務達成基準適用事業費の減
財務・経営センター負担金	338	310	▲28	
長期借入金償還金	362	511	149	医学部附属病院病棟新営その他工事費用の未払金減少に伴う減
未払金	9,258	3,035	▲6,223	
短期リース債務	540	510	▲30	
その他	686	827	141	
負債合計	37,490	31,687	▲5,803	
純資産の部				
資本金	50,666	50,666	0	施設費を財源に取得した固定資産の増(主なもの) ・設備整備事業(コンベンショナルマウス飼育設備等) ・施設整備事業(特別支援学校校舎改修等)
資本剰余金				
資本剰余金	13,016	15,083	2,067	
損益外減価償却累計額	▲10,417	▲11,392	▲975	
その他	▲2	▲2	0	
利益剰余金				
教育研究環境向上積立金	903	785	▲118	
積立金	818	1,000	183	
前中期目標期間繰越積立金	4,819	4,819	0	
当期未処分利益(未処理損失)	183	1	▲182	
純資産合計	59,985	60,960	975	
負債・純資本合計	97,476	92,647	▲4,829	

注) 単位未満は四捨五入しており、計は必ずしも一致しません。

純資産

平成26年度末現在の純資産は前年度比9億7千5百万円(1.6%)増の609億6千万円となっています。主な増加要因としては、資本剰余金が施設費による資産取得の増加により前年度比20億6千7百万円(15.9%)増の150億8千3百万円となったことが挙げられます。

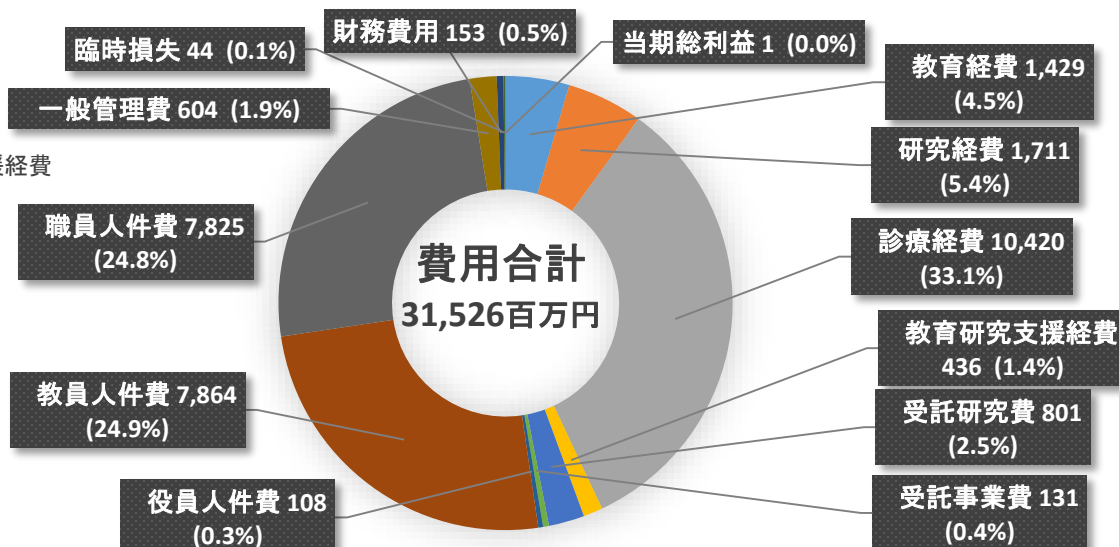
◆損益計算書P/L

損益計算書とは、平成26年度の1年間に本学が業務運営を行う上で費用がいくらかかり、収入がいくらあったかなどの財政面から見た1年間の運営状況を表示したものです。
(単位：百万円)

主な増減理由	区 分	平成25年度	平成26年度	増減額
	経常費用			
	業務費			
	教育経費	1,407	1,429	22
	研究経費	1,738	1,711	▲27
医療機器整備等の増加による減価償却費の増 診療実績の増加に伴う診療経費(材料費等)の増	診療経費	8,971	10,420	1,449
	教育研究支援経費	431	436	4
	受託研究費	676	801	125
受託研究受入増加に伴う増	受託事業費	113	131	18
	役員人件費	87	108	21
	教員人件費	7,464	7,865	401
給与減額支給措置終了に伴う増等	常勤教員給与	5,865	6,217	352
	非常勤教員給与	1,599	1,647	48
	職員人件費	7,417	7,825	408
医員、看護師、コメディカル等の増加に伴う増等	常勤職員給与	6,234	6,612	378
	非常勤職員給与	1,183	1,213	30
	一般管理費	607	604	▲3
	財務費用	153	153	0
	経常費用合計	29,064	31,483	2,418
	臨時損失			
	固定資産除却損	6	5	▲1
	前期損益修正損	5	1	▲4
PCB引当金繰入に伴う増	その他	0	38	38
	臨時損失合計	11	44	33

費用の内訳

- 教育経費
- 研究経費
- 診療経費
- 教育研究支援経費
- 受託研究費
- 受託事業費
- 役員人件費
- 教員人件費
- 職員人件費
- 一般管理費
- 財務費用
- 臨時損失
- 当期総利益



(単位：百万円)

区 分	平成25年度	平成26年度	増減額
経常収益			
運営費交付金収益	8,289	9,602	1,313
授業料収益	2,352	2,446	94
入学金収益	379	381	2
検定料収益	89	89	0
施設費収益	49	80	31
補助金等収益	678	753	75
附属病院収益	14,878	15,176	298
受託研究等収益	723	803	80
受託事業等収益	108	129	21
寄附金収益	327	292	▲35
講習料収益	40	53	13
資産見返負債戻入	998	1,343	345
財務収益	6	8	2
雑益	333	356	23
経常収益合計	29,251	31,512	2,261
経常利益	187	30	▲157
臨時利益			
固定資産売却益	0	-	0
資産見返運営費交付金等戻入	0	0	0
資産見返寄附金戻入	6	2	▲4
資産見返物品受増額戻入	0	0	0
前期損益修正益	0	2	2
償却債権取立益	0	0	0
当期純利益	183	▲10	▲193
目的積立金取崩額	0	10	10
当期総利益	183	1	▲182

主な増減理由

運営費交付金を財源とする人件費支出増加による収益額の増

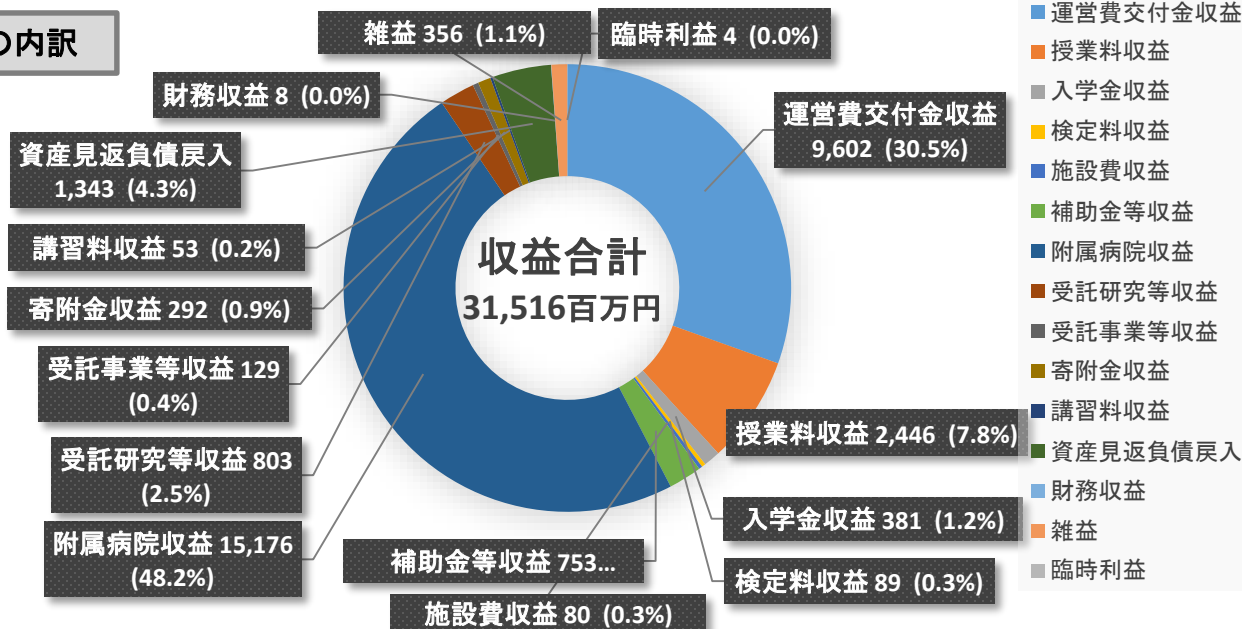
授業料収入を財源とする資産取得減少による収益額(修繕費等支出)の増

手術件数の増加、一般病床平均在院日数の短縮及び入院診療単価・外来診療単価の向上に伴う増

資産購入による減価償却費増加に伴う増

目的積立金による費用支出に伴う増

収益の内訳



◆キャッシュ・フロー計算書

キャッシュ・フロー計算書は、一会計期間におけるキャッシュ・フローの状況を「業務活動」・「投資活動」・「財務活動」の3つの区分で表示するものであり、貸借対照表及び損益計算書と同様に、本学の活動全体を対象とする重要な情報を提供するものです。

(単位：百万円)

業務活動による
資金調達等
+38億円

- 【増要因】
(主なもの)
- ・運営費交付金増
 - ・補助金等の受入額増
- 【減要因】
(主なもの)
- ・診療実績増加に伴う診療経費(材料費等)の増
 - ・病院雇用増に伴う人件費支出増

投資活動による
資金利用等
▲109億円

- 【減要因】
(主なもの)
- ・病棟新営に伴う資産取得の増
 - ・病棟新営工事未払金減少に伴う減

財務活動による
資金調達等
+6億円

- 【減要因】
(主なもの)
- ・病棟新営工事終了に伴う借入金の減

平成26年度
キャッシュ増減額
▲66億円

区 分	平成25年度	平成26年度	増減額
I▶ 業務活動によるキャッシュ・フロー	4,006	3,763	▲243
原材料、商品又はサービスの購入による支出	▲9,949	▲11,266	▲1,317
人件費支出	▲14,870	▲16,055	▲1,185
その他の業務支出	▲563	▲575	▲12
運営費交付金収入	9,016	9,857	841
授業料収入	2,367	2,381	14
入学金収入	365	378	13
検定料収入	89	89	0
附属病院収入	14,813	14,991	178
受託研究等収入	654	813	159
受託事業等収入	96	129	33
寄附金収入	477	554	77
補助金等収入	1,072	2,017	945
財産貸付料等収入	84	86	2
科学研究費補助金等の増減	28	24	▲4
その他収入	327	341	14
小 計	4,006	3,763	▲243
国庫納付金の支払額	—	—	—
II▶ 投資活動によるキャッシュ・フロー	▲547	▲10,902	▲10,355
有形固定資産の取得による支出	▲4,957	▲11,164	▲6,207
無形固定資産の取得による支出	▲38	▲64	▲26
有形固定資産及び無形固定資産の売却による収入	0	0	0
定期預金の払出・預入による収入支出	2,300	▲800	▲3,100
施設費による収入	2,141	1,119	▲1,022
国立大学財務・経営センターへの納付による支出	—	—	—
資産除去債務の履行による支出	—	▲1	—
敷金・保証金の差入れによる支出	—	—	—
小 計	▲554	▲10,909	▲10,355
利息及び配当金の受取額	7	7	0
III▶ 財務活動によるキャッシュ・フロー	3,184	568	▲2,616
長期借入金による収入	4,612	1,925	▲2,687
国立大学財務・経営センター債務負担金返済	▲369	▲338	31
長期借入金の返済による支出	▲376	▲362	14
リース債務の返済による支出	▲528	▲501	27
小 計	3,339	724	▲2,615
利息の支払額	▲155	▲156	▲1
IV 資金に係る換算差額	—	—	—
V 資金増減額	6,643	▲6,570	▲13,213
VI 資金期首残高	6,257	12,900	6,643
VII 資金期末残高	12,900	6,329	▲6,571

財務諸表等の概要

◆国立大学法人等業務実施コスト計算書

国立大学法人等業務実施コスト計算書とは、国立大学法人等の業務運営に関して、国民の負担に帰せられるコストを示すものです。

平成26年度本学の業務運営上、納税者たる国民の負担していただいているコストは12,333百万円(国民1人当たり約101円)です。【平成26年度 国立大学法人平均 13,570百万円(国民1人当たり約111円)】

(単位：百万円)

区 分	平成25年度	平成26年度	増減額
I 業務費用	9,627	11,551	1,924
(1) 損益計算書上の費用	29,074	31,526	2,452
業務費	28,304	30,725	2,421
一般管理費	607	604	▲3
財務費用	153	153	0
臨時損失	11	43	32
(2) (控除) 自己収入等	▲19,447	▲19,974	▲527
授業料収益	▲2,352	▲2,446	▲94
入学料収益	▲379	▲381	▲2
検定料収益	▲89	▲89	0
附属病院収益	▲14,878	▲15,176	▲298
受託研究等収益	▲723	▲803	▲80
受託事業等収益	▲108	▲129	▲21
寄附金収益	▲327	▲292	35
その他収入	▲40	▲53	▲13
資産見返運営費交付金等戻入(授業料)	▲211	▲213	▲2
資産見返寄附金等戻入	▲160	▲193	▲33
建設仮勘定見返運営費交付金戻入(授業料)	▲11	▲8	3
財務収益	▲6	▲8	▲2
雑益	▲155	▲181	▲26
臨時利益	▲6	▲2	4
II 損益外減価償却相当額	852	988	136
損益外減価償却相当額	852	988	136
損益外固定資産除却相当額	—	—	—
III 損益外減損損失相当額	—	—	—
IV 損益外利息費用相当額	0	0	0
V 損益外除売却差額相当額	0	1	1
VI 引当外賞与増加見積額	58	25	▲33
VII 引当外退職給付増加見積額	▲653	▲563	90
VIII 機会費用	461	331	▲130
国又は地方公共団体の無償又は減額された使用料による	—	—	—
貸借取引の機会費用	121	119	▲2
政府出資の機会費用	340	213	▲127
無利子又は通常より有利な条件による融資取引の機会費用	—	—	—
IX (控除) 国庫納付額	—	—	—
X 国立大学法人等業務実施コスト	10,346	12,333	1,987

【業務費用】

116億円

～国の財源で賄われているコスト～

損益計算書の費用から授業料収益や病院収益等の自己収入を差し引いたもの。

【増要因】

(主なもの)

- ・附属病院収入増に伴う診療経費の増加
- ・病院雇用増に伴う人件費の増加

【損益外費用】

5億円

～損益計算書に計上されていないコスト～
国から出資された資産等の減価償却、除却損及び一部の退職手当など、制度上費用に反映されていない負担相当額。

【機会費用】

3億円

～免除・軽減されているコスト～

国等から無償借受している財産や国が法人へ出資している資本等を他の投資へ振り替えたら得られたであろう相当額を利益喪失の費用として認識。

平成26年度業務実施コスト
123億円(国民1人当たり約101円)

- ◆ 各財務指標の↑を付した指標は比率が高いほど、↓を付した指標は比率が低いほど良好な状況を示しています。また、前年度と比較して、各指標が改善している場合には、↗悪化している場合には、↘変化が無い場合には、→を付しています。
- ◆ 同規模大学とは、医学系学部その他の学部で構成され、学生収容定員1万人未満の25国立大学法人です。

指標名	同規模大学 平成25年度平均 値	本 学		
		平成25年度	平成26年度	増減 (26-25)
健全性 流動比率 ↑	113.9%	112.8%	111.4%	↘ ▲1.4%
自己資本比率 ↑	55.9%	61.5%	65.8%	↗ 4.3%
活動性 業務費対教育経費比率 ↑	5.5%	5.0%	4.7%	↘ ▲0.3%
業務費対研究経費比率 ↑	6.0%	6.1%	5.6%	↗ 0.5%
学生当教育経費 ↑	224千円	277千円	282千円	↗ 5千円
教員当研究経費 ↑	2,470千円	2,931千円	2,910千円	↘ ▲21千円
発展性 外部資金比率 ↑	5.0%	4.0%	3.9%	↘ ▲0.1%
経常利益比率 ↑	1.2%	0.6%	0.1%	↘ ▲0.5%
効率性 人件費比率 ↓	50.4%	52.9%	51.4%	↘ ▲1.5%
一般管理費比率 ↓	2.8%	2.1%	2.0%	↘ ▲0.1%
収益性 診療経費比率 ↓	66.0%	60.3%	68.7%	↗ 8.4%
附属病院収入対 長期借入金返済 比率 ↓	7.8%	5.0%	4.7%	↘ ▲0.3%

健全性

国立大学法人として継続的安定的に高等教育サービスを提供するためには一定の財務の健全性(安定性)が必要となります。

活動性

国立大学法人は教育研究を行うところですから、教育研究や管理業務の活動状況を財務的に把握することが重要です。

発展性

国立大学法人の発展性は、財務的には、収益性を高めて財務体質を強化している程度を示しており、付加価値の増加分と言い換えることができます。

公 式	指標の意味
流動資産 / 流動負債	1年以内に支払うべき債務（流動負債）に対して、1年以内に現金化可能な流動資産がどの程度確保されているかを示す。
自己資本（純資産） / （負債＋純資産）	総資産に対する自己資本の比率であり、財務の健全性を示す指標。この比率が高いほど大学の安定性（健全性）が高い。
教育経費 / 業務費	業務費に対する教育経費を示す指標。 この比率が高いほど教育活動に使用される経費割合が高い。
研究経費 / 業務費	業務費に対する研究経費を示す指標。 この比率が高いほど研究活動に使用される経費割合が高い。
教育経費 / 学生数（人）	学生1人当たりの教育規模を示す指標。 この値が高いほど学生1人当たりの教育に要する経費が大きい。
研究経費 / 教員数（人）	教員1人当たりの研究活動規模を示す指標。 この値が高いほど研究活動で使用される経費が大きい。
（受託研究等収益＋受託事業等収益＋寄附金収益） / 経常収益	外部資金収益の経常収益に占める割合を示す指標。 この比率が高いほど外部資金への依存度が高い。
経常利益 / 経常収益	経常収益に対する大学の事業活動によって得た利益の割合を示す指標。この比率が高いほど事業の合理性と能率性が高い。
人件費 / 業務費	人件費の業務費に対する割合を示す指標。この比率が小さいほど大学の効率性が高い。（教育経費や研究経費を重視）
一般管理費 / 業務費	一般管理費の業務に対する割合を示す指標。この比率が小さいほど大学の効率性が高い。（教育経費や研究経費を重視）
診療経費 / 病院収益	病院収益に対する診療経費の割合を示す指標。 この比率が低いほど病院の収益性が高い。
（長期借入金返済＋財務経営センター納付金） / 附属病院収入	病院収入に対する借入金の割合を示す指標。 この比率が低いほど病院の健全性が高い。

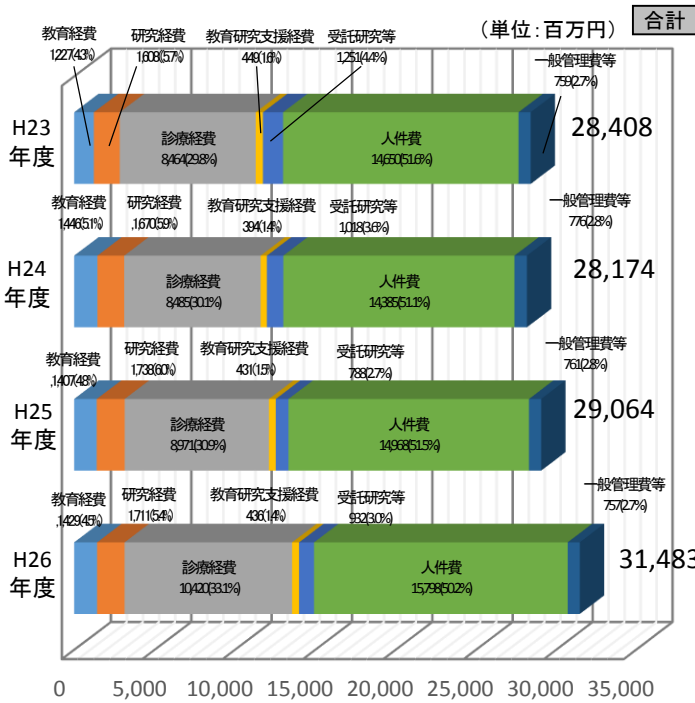
効率性

国立大学法人には、国の税金が投入され運営されていることから、効率的な運営は、国立大学法人にとって資源の効率的な利用になると同時に、国民の皆様にとっても税金が効率的に使用されているかどうかを示す重要な要素になります。

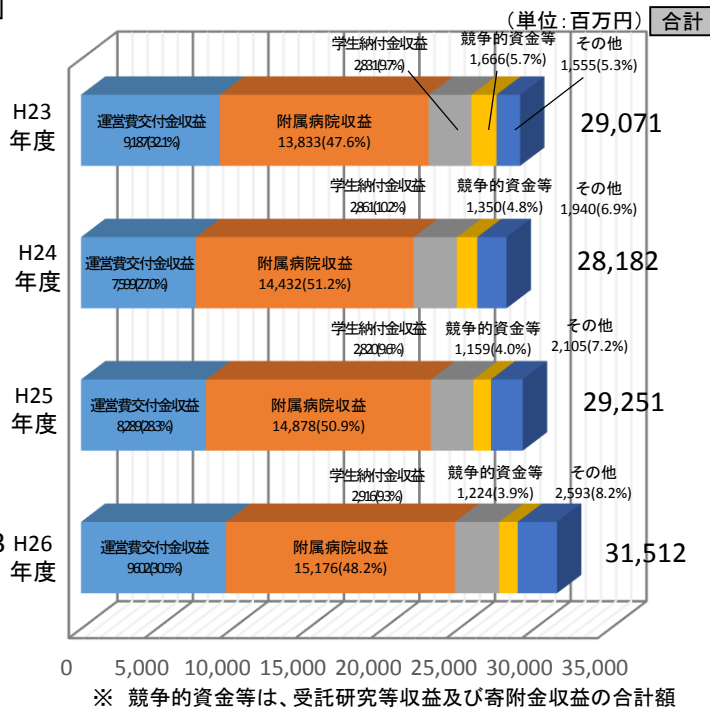
収益性

国立大学法人は、公共的性格を有することから利潤追求という観点からの収益性は求められていません。しかし、附属病院においては、多額の自己収入が発生し、それに応じた経費も多額となるため、診療経費に見合う収益確保は重要となります。

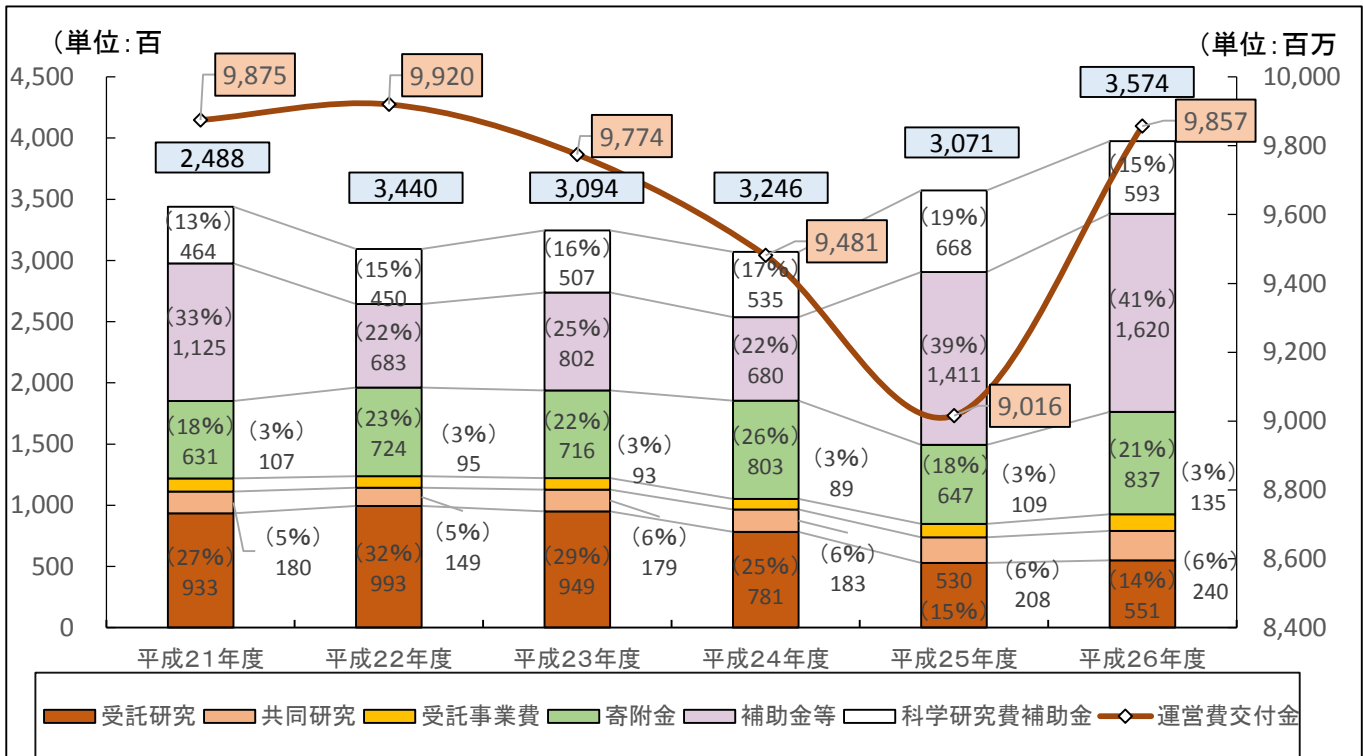
〔経常費用の推移〕



〔経常収益の推移〕

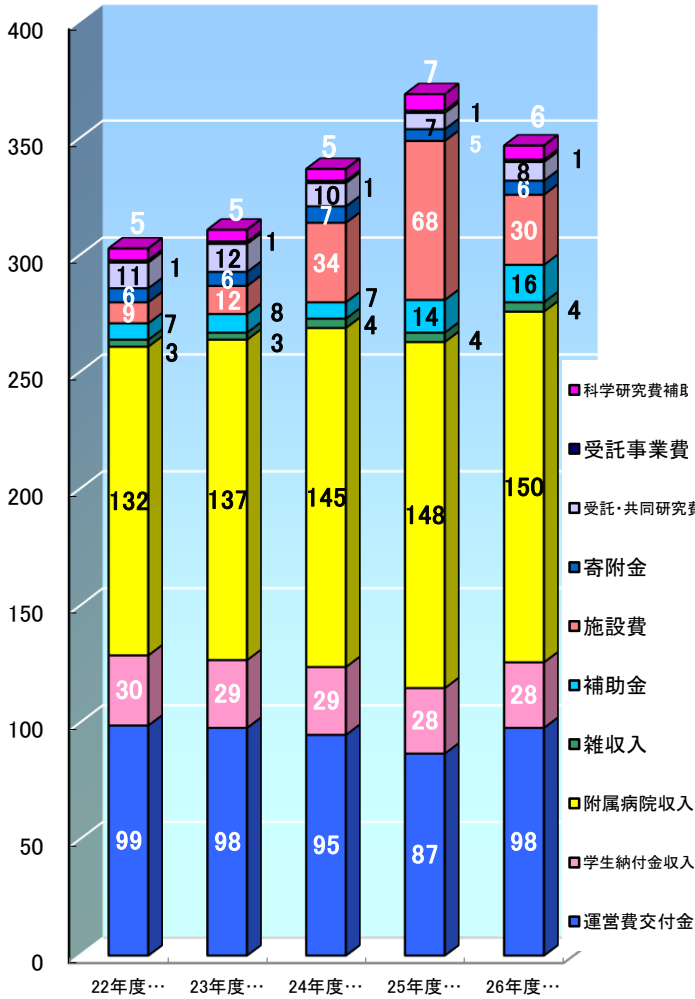


〔運営費交付金と競争的資金等獲得状況〕

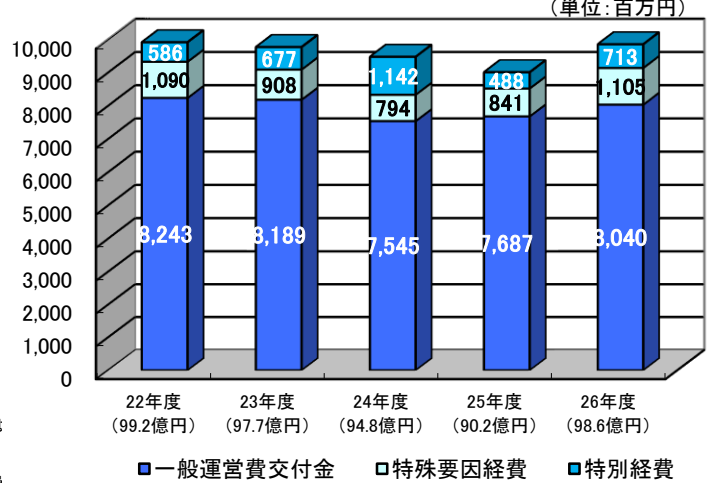


※ 平成24年度及び平成25年度は、国家公務員の給与の改定及び臨時特例に関する法律の趣旨を踏まえた給与減額支給措置の影響により、運営費交付金の額が大幅に減少している。

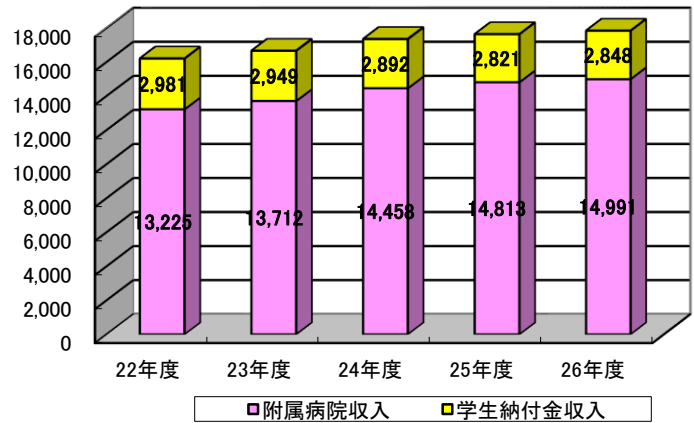
●大学運営資金(科研費、施設費等外部資金含む)
(単位:億円)



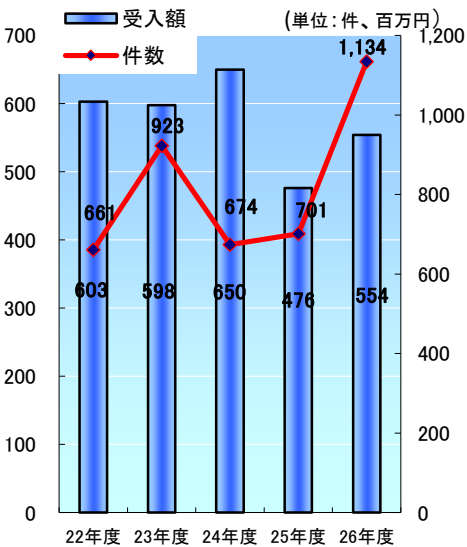
●運営費交付金収入
(単位:百万円)



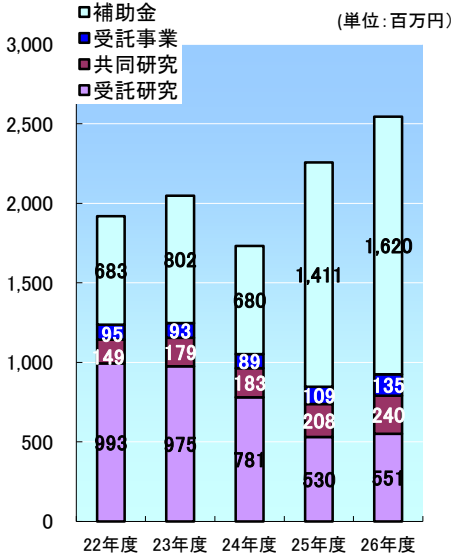
●自己収入(学生納付金・附属病院収入)
(単位:百万円)



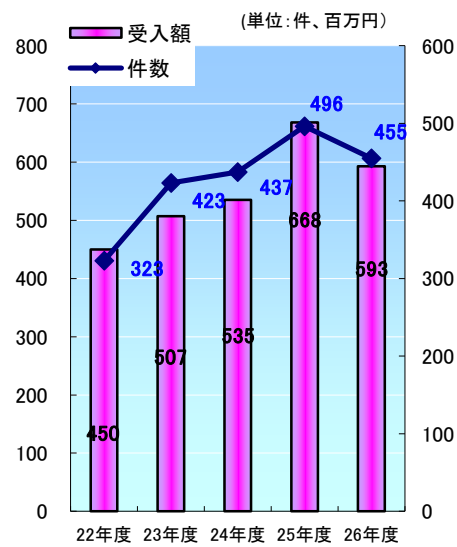
●寄附金



●受託研究・共同研究・受託事業・補助金
(単位:百万円)



●科学研究費補助金
(単位:件、百万円)



病院再整備第一弾

福井大学医学部附属病院は、病院再整備の基本理念「優れた地域医療人を輩出するハイクオリティーマディカルセンター」のもと、平成 22 年から病院再整備事業を開始し、第 1 期事業として、平成 26 年 9 月 16 日に、地上 8 階、地下 1 階建て、延べ床面積約 2 万 5000 m²の新病棟が稼働を始めました。

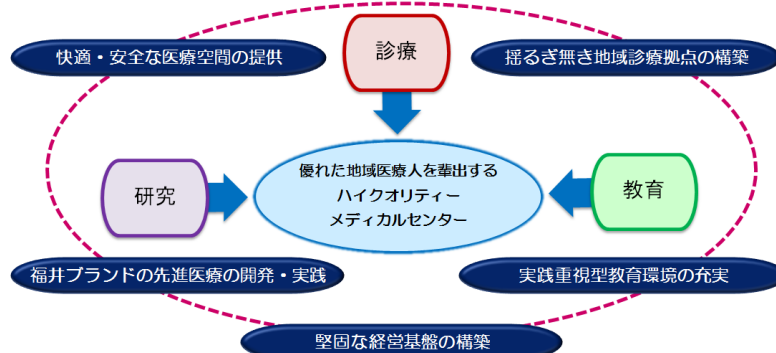
救急部は「北米型 ER 救急体制」を大幅に拡充、手術室は全国屈指の広さを誇り、術中 CT 装置と、カテーテル治療と外科手術が一つの部屋のできる「ハイブリッド手術室」を設置、病棟は 3～7 階で、内科・外科の境界を取り払った「臓器・疾患機能別病棟センター」を全病棟で実現させるなど、チーム医療をさらに推進しています。また、一般個室をはじめ、無菌個室、緩和ケア個室等、全部で 168 床とし、患者さんの病状やプライバシーに配慮しています。

現在は病院再整備の第 2 期工事に着工し、平成 30 年度の完了を目標に既存棟の改修、外来スペースの拡充、中央採血室や中央処置室ゾーンの集約、患者さんのご家族が休憩や仮眠をとれる家族控室、患者総合支援センターの設置などを計画しています。



病院再整備の基本理念(コンセプト)

(病院の理念) 最高・最新の医療を安心と信頼の下で



新病棟稼働

新病棟の特徴

1. 救急医療体制を大幅に拡充

北米ER型救急（1次救急から3次救急までのすべての救急患者の方を受入）に対応するため、救急搬送口と救急外来入口を分け、効率的な動線を確保しました。救急搬送口を入れて直ぐに除染室を設け、広い処置室には救急部専用のCT装置を設置し、迅速な診断が可能となります。



救急部専用CT装置

2. 「最高・最新の医療」を提供

血管撮影装置と手術寝台を組み合わせたハイブリッド手術室を始めとする先端医療機器や設備を導入、また、手術部、集中治療部、滅菌管理部を効率的な動線で結び、人的、物的な移動を最小限にすることで、患者さんの負担を軽減することができます。

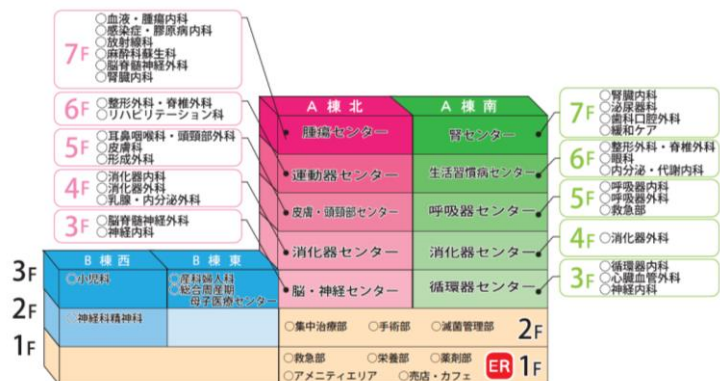


ハイブリッド手術室

3. 集学的なチーム医療を展開

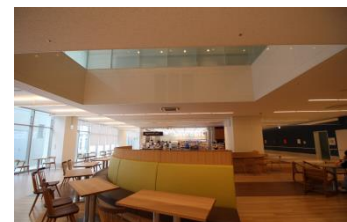
全国では少ない「臓器・疾患機能別病棟センター」を全病棟で実現しています。

集学的診療体制による治療効果の向上を目的とし、病棟フロアごとにセンター化することで、診断から入院、治療、退院までを切れ目なく完結させ、患者さん中心の医療を展開することができます。



4. 快適で機能的な病室と環境・アメニティエリア

○1階のアメニティエリアは、売店、カフェを設置し、来院された方に快適にお過ごしいただくことができます。また災害時にはトリアージ（災害時に患者さんの重篤度に応じ治療の優先度や処理の方法について診断を行う作業）を行うスペースとして活用するため、壁に酸素の供給、吸引用の設備を設置しています。



売店・カフェを設置。災害時にはトリアージスペースとして活用

○入院病棟は、個室を既存棟 75 床から 168 床に大幅に拡大。無菌病室、緩和個室を増やし、様々なニーズに対応することができます。また、各病棟に談話室やデイコーナーを設け、患者さんがご家族とくつろぐことができます。



個室Dタイプ

(トイレ・シャワーユニット有)

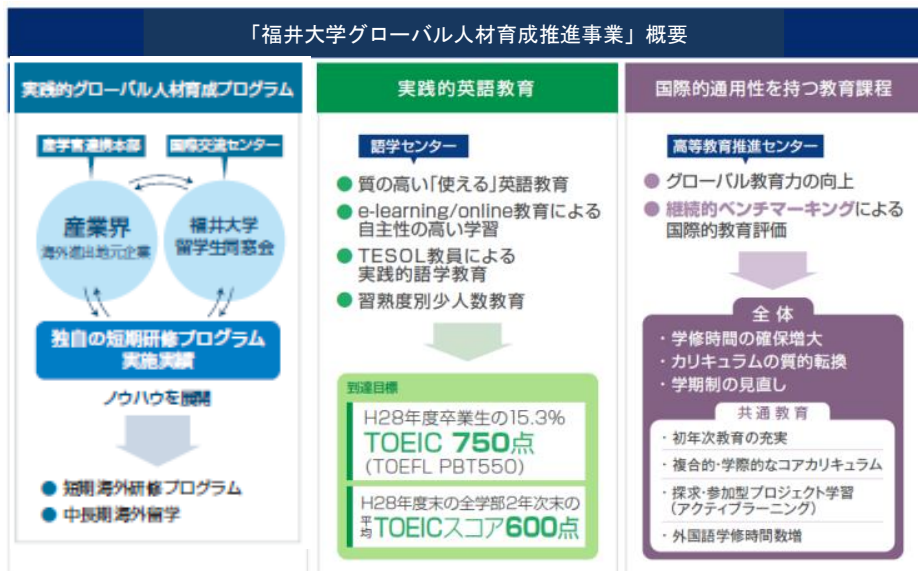


病棟 EV 前の談話室

グローバル人材育成 福井から世界へ

福井大学では長期目標として、「21世紀のグローバル社会において高度専門職業人として活躍できる優れた人材の育成」を掲げています。平成24年度に東海北陸地区の国立大学で唯一採択された、文部科学省の「経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援[※]」では、工学部・工学研究科を中心に「世界的な視点をもった高度専門職業人の育成」を目指し、様々な取組を進めています。

※「グローバル人材育成推進事業（平成24年度採択）」を組み替えたもの



これからの地方に必要なグローバル人材育成モデルの構築と実行を目指して

「語学センター」による実践的英語教育

- 質の高い「使える英語」の修得のため、TESOL等を専門とした英語教育のプロフェッショナルによる実践的英語専門教育を実施しています。
※TESOL（英語を母国語としない人たち向けの英語教授法）
- 交流スペース「Global Hub」には、留学経験豊富な学生スタッフや留学生が集まり、メディアの活用や交流イベントへの参加を通して国際感覚を養うことができます。また、国内トップクラスの言語開発センター（Language Development Center: LDC）には、e-learningシステムや語学学習のための本・DVD等の教材を多数備え、充実した自主学習環境を提供しています。



英語インストラクターによる英語授業風景



スピーキング練習が可能な遮音室の個別学習ブース（LDC）



Global Hubでの異文化交

詳しくは福井大学 語学センター

国際的評価に基づいたカリキュラム改革

- 語学教育カリキュラム改革として、平成25年度から工学部新入生に対し、また平成26年度からは教育地域科学部新入生に対し、週2回の英語授業を実施しています。加えて、TOEIC及び語彙テストを実施し、習熟度別少人数クラス編成による教育を実施しています。
- 平成25年度末に実施した工学部1年次生全員を対象としたTOEICでは、入学時と比較して平均スコアが50点以上上昇する等、高い成果を挙げています。
- 教育の国際的質保証や教員のグローバル教育力向上、職員の学生支援力量向上の観点から、海外の先進大学の視察・ベンチマークを実施しました。全学FD・SDシンポジウムの開催や海外の先進大学から講師を招聘して外部評価を行い、カリキュラムや評価の改革、学習時間の確保や学期制の見直しなど国際的通用性を持つ教育課程の実現を目指します。



海外先進大視察風景



米ブラウン大学FDセンター長を招聘

実践的グローバル人材育成プログラム

・学年や学習段階、各学生のニーズに合わせて留学できるよう、目的や内容に応じて6つの型の短期海外研修プログラムを実施しています。留学を希望する学生に対しては、海外渡航経験がない学生でも、不安や問題なく研修に参加できるよう、事前の十分な情報提供、オリエンテーションの実施、手続きの補助、現地でのサポートを行い、安全で学びの大きい留学の実現を支援します。

【語学研修型】

現地大学または附属語学学校にて、語学力の向上を目指す研修です。学部1年生から博士後期課程の学生まで、どなたでも参加可能です。平成27年度は、英語、ドイツ語、タイ語の研修を予定しています。

【文化体験・交流型】

文化・歴史遺産の訪問、文化体験、学生交流等を通し、グローバルな環境に慣れ理解を深めることを目的とした研修です。異文化を身近なものとして捉えられるよう、現地学生との交流を中心とした様々な活動が企画されています。

【グローバル教養型】

特定地域の社会文化に関する講義やフィールドワーク等への参加を通して、グローバル人材としての教養を高めます。座学よりも課外での活動が多く、自己学習力・問題解決能力の向上が期待できます。

【専門分野型】

専門分野の講義や実験への参加、関連企業への訪問等を通して専門分野の理解を深めます。専門分野の知識をある程度有する学生が多く参加しています。

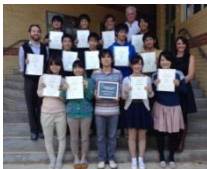
【実践・インターンシップ型】

就業体験などの実践を通して Global IMAGINEER[®]としての専門性や創造性を高めること目的とした研修です。大学で習得した専門的知識・能力を実践で活用するべく、企業インターンシップ等を行います。

【研究・発表型】

現地大学生との共同研究、学会参加や発表などを通して Global IMAGINEER[®]としての専門性や創造性を主体的に高めること目的としています。

※福井大学がグローバル人材として定義する『歴史や文化が異なる地域においても、世界の人々と協働して生き生きとした暮らしづくりに貢献できる高い専門能力と創造力・実践力を有した高度専門職業人』



語学研修型



文化体験・交流型



グローバル教養型



専門分野型



実践・インターンシップ型



研究・発表型

平成26年度短期海外研修プログラム（短期）

平成26年度は **43 プログラム** を実施し、計 **233 名** の学生が留学を行いました。

<主な短期海外研修プログラム実施大学>

ポートランド州立大学（アメリカ）、オカナガン大学（カナダ）、サザンクロス大学（オーストラリア）、ワイカト大学（ニュージーランド）、バーミンガム市立大学（イギリス）、ハンブルク大学（ドイツ）、ノイチャテル大学（スイス）、東亜大学校（韓国）、上海理工大学（中国）、中国医薬大学（台湾）、南洋理工大学（シンガポール）、国立フィリピン大学物理学研究所（フィリピン）、タマサート大学（タイ）、アイルランガ大学（インドネシア）、マラヤ大学（マレーシア）、ハノイ工科大学（ベトナム）ほか

平成26年度短期海外研修プログラム（中期）・交換留学



台湾 国立高雄大学
吉田 清孝
工学部4年
平成26年9月～12月
(3ヶ月)

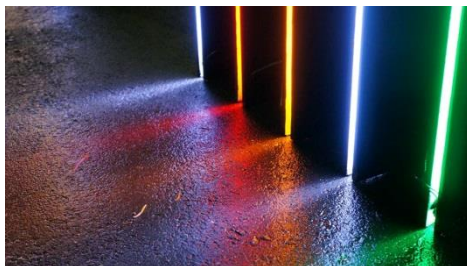
以前より、海外に留学したいという希望を持っていたこともあり、光の観測方法の一つであるフォトルミネセンス法の研究を行っている国立高雄大学への留学を決めました。国立高雄大学の研究室では、現地学生とともに実験を行いながら、問題点や実験方法を討論しました。5階建ての図書館が埋まるほど熱心に勉強する現地学生の姿に影響を受けて、私も3ヶ月という限られた留学期間中、積極的に実験に取り組みました。得られた知識や実験結果は、論文作成に活かす予定です。



ドイツ ハンブルク大学
三上 結以
教育地域科学部3年
平成26年10月～
平成27年3月(6ヶ月)

私は、第二外国語として勉強していたドイツ語をさらに学ぶため、ハンブルク大学に交換留学しました。大学では、ドイツ語と英語の授業に参加したほか、授業の空き時間には、「タンデム」という制度を利用して、日本語を勉強したいドイツ人とお互いの言語を教え合ったり、日本学科の授業のサポートもしました。

元々ドイツの多文化共生に興味があったのですが、ドイツ語が十分に話せない私に対しても優しいドイツ人と生活をともにすることで、さらに理解が深まりました。



キャンパスイルミネーションは、平成 21 年冬に文京キャンパスで初めて開催され、翌年からは患者さんに優しい灯りを届けようと松岡キャンパスでも開催しています。学生の思い出に残る感動を与えるイルミネーションとなるよう、学生自らが企画し、毎年行灯やオブジェを用いた様々な技術・工夫を重ねた福井大学ならではの「ものづくり」としての取り組みが行われています。学校・商業施設などからのご依頼を受け、学生が主体となってイルミネーションやプロジェクションマッピングの企画・運営にも取り組んでいます。

詳しくは [福井大学 キャンパスイルミネーション](#) [検索](#)

財務レポートをお読みいただきありがとうございました。

なお、財務レポート等決算に関連する資料は、本学ホームページで公開しております。

<http://www.u-fukui.ac.jp/>

今後もみなさまに財務情報をわかりやすく説明するよう努めてまいります。

財務レポートに関するみなさまからのご意見を賜りますようお願いいたします。

国立大学法人福井大学 2014財務レポート

発行: 福井大学財務部財務課決算係

〒910-8507 福井市文京 3-9-1

TEL: 0776-27-9786 FAX: 0776-27-8870

<mailto:zzkessan-k@ad.u-fukui.ac.jp>

<http://www.u-fukui.ac.jp/>